

一般社団法人日本コンクリート診断士会
第5回定時社員総会議事録

1. 日時：平成26年5月27日（火） 14:00～15:25
2. 場所：公益社団法人 日本コンクリート工学会 11階会議室
3. 資料：一般社団法人日本コンクリート診断士会第5回定時社員総会資料
 - (1) 第1号議案：平成25年度事業および収支報告
 - (2) 第2号議案：平成26年度事業および収支計画
 - (3) 第3号議案：細則改訂
 - (4) 第4号議案：理事・監事改選
 - (5) 報告-1：各地区コンクリート診断士会活動報告と計画
 - (6) 報告-2：会員数等報告
 - (7) 報告-3：参加委員会活動報告
 - (8) 報告-4：幹事会名簿

4. 出席者数

学術・正会員出席者数：当日出席56名(51名)+委任状出席 510名

計566名(4月1日現在議決権数:1079名)

賛助会員出席者数：7名

法人会員出席者数：6名(5社)(法人枠で登録の会員を除く)

メディア関係：1名(セメント新聞)

()内は最終出席者数である。

5. 議事

- 5.1 開会宣言：開会を司会の田沢理事が行い、総会成立について定数の確認が行われ出席56名、委任状出席510名の566名で、総会成立要件540名（議決権数1079名の半数）を満たしているとの報告がなされた。
- 5.2 議長の選出：定款13条により議長に林会長が選出され、挨拶があった。主な内容は以下の通りである。
 - ・1998年に診断士制度に関する準備委員会が立ち上がり、2001年に診断士制度ができた。
 - ・制度発足時には、10年後に5000名の診断士を目標にしたが、14年後には10000名を超えた。
 - ・JCDも2010年に設立され、当時の会員数は約600名であったが、現在は1200名を超えた。
 - ・本会の発展のためには、社会への認知度が重要で、国交省でも認知されてきた。しかし、さらなる認知度の向上が必要である。
 - ・診断士は、高度な技術者集団で、まとまりのあることが必要である。

5.3 議案

5.3.1 第1号議案について

- (1) 資料(1)の第1号議案の事業報告(案)について毎田理事(事務局長)から説明し、以下の修正があった。
 - ・資料の11. 法人会員拡大計画の「…、実績はA会員0社、B会員0社、C会員6社であった。なお、退会はなかった。」→「…、実績はA会員0社、B会員0社、C会員6社であった。なお、退会は0社であった。」と修正する。
- (2) 資料(1)の第1号議案の収支報告(案)について井田理事(会計担当)から説明した。
- (3) 伊藤監事より監査報告がされた。

(4) 上記の説明に対して異議はなく、第1号議案は原案通り承認された。

5.3.2 第2号議案について

(1) 資料(2)の第2号議案について各担当理事から説明した。

- ・企画部会：石川理事から26年度の計画について、①診断士会の交流、②その他事業の企画－共通項を吸い上げ企画していききたい、形になるものを作っていききたいなどについて説明をした。
- ・技術部会：奥田理事から26年度の計画について、①全国業務体験発表会に重点を置いていききたい、②関連委員会への参加・情報の共有、③技術情報の共有などについて説明した。①について今年度は11月下旬開催を予定していると発言した。
- ・広報部会：名倉理事から26年度の計画について、①メールかわら版の発行－JCD、地区の会の活動情報、②HPでは地区の会情報を増やしていききたい、③関連官公庁への積極的なPRの計画などについて検討・実施していききたいと説明した。今年度から広報部会担当になる旨発言した。
- ・会員部会：奈良理事から26年度の計画について、①空白地区の会設立の支援していききたい－宮城県コンクリート診断士会3月に設立、来年度JCDに入会予定、②個人会員他積極的な入会勧誘をしていききたいなどについて説明した。
- ・財務部会：竹内理事より26年度の計画について、①健全な財務体質、②効率的な業務の推進を事務局と協働して進めるなどについて説明した。
- ・事務局：毎田理事から26年度の計画について、各部会、地区会の支援、増えた会員管理など事務局業務の効率化・簡素化をさらに行うなどと説明した。

(2) 資料(2)の第2号議案-26年度収支計画(案)について竹内理事から説明した。

(3) 上記の説明に対して異議はなく、第2号議案は原案通り承認された。

5.3.3 第3号議案について

(1) 資料(3)の第3号議案について小野副会長から説明した。

(2) 上記の説明に対して異議はなく、第3号議案は原案通り承認された。

5.3.4 第4号議案について

(1) 資料(4)の第4号議案について毎田事務局長から理事・監事候補を紹介した。なお、先ほど行われた理事会で本改選(案)が承認された場合の役職について議事のスムーズな進行のために事前に協議し承認されている旨を報告した。退任する理事・監事は3名で、新任理事・監事は5名である。

(2) 上記の説明に対して異議はなく、第4号議案は原案通り承認された。

5.4 報告

5.4.1 報告-1について

(1) 資料(5)の報告-1：各地区コンクリート診断士会活動報告と計画について各地区の会会長から報告を行った。各地区の会からの報告の主なトピックスは以下とおりである。

- ・福井(石川会長)：①昨年10周年記念講演会を行い約150名が参加した。当初13名で発足し、現在98名となった。②本会は地域密着が特徴である。③研修会他を実施した。④今後は研修会以外の活動についても行っていききたい。
- ・鳥取(有本会長)：①会員が5名増えて35名となった。②HPを利用した意見交換システム(掲示板システム)を取り入れた。③見学会は4月にずれ込んだ。④5/22に総会を開催した。
- ・島根(井田会長)：①会員が67名になった。②土木学会全国大会で毎年、業務成果を発表しているが、今年度は難しい状況である。③毎年、診断士受験準備講習会を開催している。
- ・東京(小野会長)：①見学会と技術セミナーが主な行事で、静岡コンクリート診断士会と合同で見学会(他地区も参加)を実施した。②JCDと共催で受験対策講座(2回)を実施している。

③会員数は188名から191名になった。

- ・石川（古川会長）：24年度は、①H18年に設立して9年目になり、会員数は70数名、法人会員9社である。②見学会、技術講習会を実施している。③27年度は10周年になり、業務体験発表会が当地で開催できれば記念になる。
- ・大分（後藤事務局長）：①会員は70名になった。②受験対策講座他を行っている。③技術講演会の参加者が少なくなる傾向にある。
- ・青森（奈良会長）：①資料の会員数他の修正がなされた。（具体的な修正内容を記述した方がよいのではないのでしょうか。）②技術研鑽のための勉強会を実施している。③26年度もJCI+青森+宮城の合同で勉強会を開催予定である。
- ・静岡（名倉会長）：①H18年に16名で発足したが8年目で56名になった。②会員資格を県内企業に限定しているために会員数が伸びない。今後検討する必要がある。
- ・高知（原田会長）：①会員を増やすための方法として受験対策講座を実施している。②研修会を実施し200名の参加があった。
- ・京滋（高井副会長）：①6年前に発足した。②見学会、研修会を実施している。③当会の会員は92名+16社である。※JCD会員は16名
- ・新潟（伊藤副会長）：①老朽化を考えるシンポジウムを2回実施している。②講師派遣が増えてきた。③26年度は実技を含む講習会の開催を考えている。
- ・北海道（田端副会長）：①診断士普及講習会（受験対策）、技術研修会（講演+実学+診断事例）、現場研修会（非破壊検査など）などを実施している。②講師を派遣し支庁他で講演している。③受験講習会（法人中心）を実施している。④会員数は130名+26社である。
- ・東海（竹内会長）：①H22年に設立し5年目になり、会員数は83名である。②当会+MEの会の合同研修会（メンテナンsexキspart）、見学会を実施している。③26年度は受験講座を計画している。
- ・長野（日堂会長）：①技術発表会を実施している。②25年度はTCD+SCD主催の見学会に参加した。
- ・広島（米倉会長）：①H23年設立し4年目になる。個人会員数は71名である。②診断士の普及活動としてH25、26年度広島県測量設計業協会へ講師の派遣を行っている。③隔月にサロン（技術研修会）を実施している。③広島で劣化損傷物件の定点調査、コンクリート探偵会、無人ヘリによる橋梁点検や良品質コンクリートでの新設橋梁見学会を実施した。
- ・宮崎：参加していないので事務局長から記載内容の紹介がなされた。

(2) 報告を承認した。

5.4.2 報告-2について

- (1) 資料(6)の報告-2：会員数報告について5月23日現在の会員数1210名（学術：17名、正会員：1062名（うち、9名は直接入会、28名は法人からの登録）、賛助会員132名（うち、13名は法人からの登録））、法人会員は68社（ランクA：12社、ランクB：8社、ランクC：48社）で、昨年度比225名増、法人会員5社増と奈良理事から報告を行い、報告を承認した。

5.4.3 報告-3について

- (1) 資料(7)の報告-3(1)：サステナビリティ委員会サステナビリティフォーラム報告について木村(TCD)から25年度の活動概要など報告を行った。今年度は、8月に委員会報告書の発行と報告会の開催予定で、HPの開設を計画している旨を報告し、報告を承認した。
- (2) 資料(7)の報告-3(2)：インフラドック構築フィージビリティ調査研究員会活動報告について峰松(TC)から25年度の活動概要など報告を行い、報告を承認した。

5.4.4 報告-4について

(1) 資料 (8) の報告-4 : JCD幹事の名簿について事務局長より紹介された。

5.5 閉会の挨拶

佐藤副会長より閉会の挨拶があった。

6. 特別講演

(1) 特別講演が、下記の通り行われた。

- ・講師：石橋忠良氏
- ・演題「地震被害と復旧、今後の対策」
- ・講演時間：15:40～16:40

講師の紹介（紹介者：小野副会長）の後に講演が開始された。

講演では、宮城県沖地震、兵庫県南部地震、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、東北地方太平洋沖地震のうち兵庫県南部地震の経験、新潟県中越地震の経験、東北地方太平洋沖地震の経験を取り上げて講演が進められた。

(2) 兵庫県南部地震他の経験—山陽新幹線高架橋他講演の内容

- ・せん断強度を $7\text{kgf/cm}^2 \rightarrow 4\text{kgf/cm}^2$ とした古い構造物は壊れた。
- ・古いものは直さない（補強等しない）という設計の考え方がある。
- ・応援に行くときは、自活できるように段取りしていくことが重要。
- ・設計の最終判断をする人がいないと物事は検討ばかり増えて進まない。→技術的判断をする責任者が必要
- ・「正しい情報を早く出す」ことが重要。→間違えた情報が先に出るとこれを訂正するのは不可能に近い。
- ・電柱の基準は古くて、たくさん破壊した。これに対して、土木、建築は順次改訂されていた。
- ・今後は、在来線が問題になる。

(3) 講演に対する質問

Q1：昔は、個人が基準を変更して対応していたとありましたが、基準との整合の仕方はどのようになっているのでしょうか？

A1：同じ程度の地震では、同じような壊れ方をしないという考え方で補修・補強している。ぎりぎりの設計はしない。実際、付帯工事にコストがかかり、材料費はたいしたことがない。
→二度と同じところに手を加えないようにするという考えで設計させている。

Q2：兵庫県南部地震では、JRの方針は撤去→新設ではなく、柱は補強という考え方でしたが、基礎はどのように考えたのでしょうか？

A2：基礎は調査しなくてもよいと指示していた。昔の研究で、あるところが壊れれば他は壊れていないとの結果がある。また、過去の調査で、基礎は壊れていない（過大設計している）。たとえば、フーチングの前面抵抗をみていないなど安全に余裕がある。基礎では、沈下していないことが「列車を通す」という意味で重要である。

7. 閉会宣言があり、16:45に閉会した。

文責：木村（事務局）



林会長挨拶



総会全景